

資料紹介

昭和20年日記(熊本空襲の記録)

今回で紹介する昭和20年日記は令和4年(2022)6月、当館へ新たに寄贈された資料です。

日記を記録したのは、当時、新屋敷(現熊本市中央区新屋敷)に居住していた故・竹原武純氏です。日記は昭和20年7月1日から起草されていますが、まさにその日の夜に米軍機による熊本空襲が実行されました。当時、武純氏は長年勤めた教職を退職し、息子・孫たちと同居していました。この日、家財搬出のため出水方面へと出かけた息子の帰りを夜遅くまで待っていると、突如として空襲警報が発令されます。孫たちを防空壕へ退避させる間もなく大小の焼夷弾が投下され、辺り一面が火の海と化しました。武純氏は2人の孫とはぐれながら大江通りを逃げまどい、千反畑、水道町方面の火勢が盛んなのを目撃しつつ命からがら白川端へと避難します。「焦熱地獄も斯くや」(灼熱地獄とはこのようなものだろうか)という火の勢いでしたが、何とか難を逃れることができました。

その後、出水校(現出水小学校)で家族は再会しましたが、家を焼け出された武純氏は孫たちとしばらく疎開生活を送ることになりました。戦後80年近くが経過した今、この日記は熊本市民が体験した「熊本空襲」の状況を伝える、貴重な歴史資料です。

表紙

本文

尾形月耕《有栖川宮督戦之図》について(続報)

前号で紹介した《有栖川宮田原坂督戦之図》(熊本城頭彰会所蔵、当館寄託)について、その後、作者や画題について新たにわかったことがありましたので報告します。

まず、作者は、日本画や錦絵を手がけた明治期の絵師・尾形月耕(1859-1920)と判明。月耕は江戸に生まれ、独学で画法を修得。新聞や小説の挿絵などで人気を博しました。昨年度の寄贈資料に『月耕随筆』という作品の一部があり、本作も月耕の作と確認できました。

さらに、当時の新聞記事(明治28年(1895)10月8日付『九州日日新聞』)から、本作は、明治28年10月に熊本市に開館した熊本県立の博物陳列場「観聚館(かんじゅかん)」(後の物産館)に展示されていたとわかりました。また、田原坂ではなく、段山から花岡山方面の戦場を描いた作品だったことも判明。これまで資料名に冠されてきた「田原坂」は間違いだったのです。

長らく詳細不明であった作品について、収藏品調査をきっかけに新たな情報を加えることができたのは大きな成果。今後も、収藏品の調査・整理を地道に続けたいと思います。

最後に、本作に関して熊本県立美術館の林田龍太学芸普及課長には多くのご教示を賜りました。ここに記して心より感謝申し上げます。

(美術工芸担当:竹原)

熊本の自然

江津湖で見られる魚類 クルメサヨリ

本州から九州、台湾からベトナム北部にかけての主に内湾、河川下流部から河口域にかけて分布します。「サヨリ」のイメージから、海の魚と勘違いされがちですが、主な生息域は汽水域(川の水と海の水が混じりあう場所)で、江津湖のようにまったく潮の影響のない淡水域でも見られます。サヨリ同様、下顎が長く伸びますが、下顎が頭長(上顎先端から鰓蓋後端までの長さ)よりも長い場合、頭長より短いサヨリと簡単に区別することができます。

河川改修による生息環境の悪化や、卵を産みつけるための抽水・沈水植物の消失などにより減少しているらしく、各地で絶滅危惧種に指定されています。熊本では現在のところ準絶滅危惧種ですが、目にする機会は多くないため注意が必要です。これまで江津湖では夏にも冬にもクルメサヨリの成魚を確認していますが、江津湖内で一生を過ごすのか、汽水域と行き来しているのか、どこで産卵するのか、その暮らしぶりについてほとんどわかっていません。基本的な情報が不足しているため、守るための具体策を考えるのも難しい状況です。認知度の低いこの魚が、人知れず消滅してしまうことのないよう、早急に知見を増やしていかなければなりません。

(動物担当:清水)



熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

くまはくNEWS LETTER Vol.12

発行 熊本博物館

〒860-0007 熊本県熊本市中央区古京町3-2
TEL. 096-324-3500 FAX.096-351-4257
kumamoto-city-museum.jp

くまはく NEWS LETTER

Vol.12

熊本博物館夏季特別展 /KAB 熊本朝日放送開局 35 周年記念

旅するタネ

7月13日(土)~9月1日(日)

■ 特別展案内

旅するタネ

■ 企画展報告

資料保存の世界 未来へつなぐ文化財の裏側

■ 通年講座報告

植物学講座 くまはくのゆるゆる美術部

■ イベント報告

こども自然学び教室

・化石と海辺の生きものの観察会 ・ちりめんモンスターを探そう!

くまはく誕生月間

・押し花でつくる万華鏡 ・半導体に触れよう、学ぼう!

■ 資料紹介

昭和20年日記(熊本空襲の記録)

尾形月耕《有栖川宮督戦之図》について(続報)

■ 熊本の自然

江津湖で見られる魚類 クルメサヨリ

熊本博物館
KUMAMOTO CITY MUSEUM

2024年5月



肥後の見張り番
しゃちべえ

特別展案内

旅するタネ

2024年7月13日(土)～9月1日(日)



一度根付くと移動する術をもたない植物が、唯一移動できるのが「タネ」の時期。風によって飛んで行ったり、水の流れて遠くへ運ばれたり、勢いよく弾け飛んだり、動物にくっついて移動したり…。タネは自然の力や動物の行動を巧みに利用して、本体から離れて旅に出ます。その旅を成功させるために、かたちを工夫したり、鮮やかな色をしていたりするものも多く、驚きのワザや仕掛けをたくさんもっています。本展では、身近なところで見られる草花や樹木の種子・果実、海外の珍しい貴重な種子、さらには種子の化石などを展示し、植物の多様な種子散布について紹介します。いのちをつなぐため、賢く生き抜く植物の妙をお楽しみください。

(植物担当: 山口)

企画展報告

資料保存の世界 未来へつなぐ文化財の裏側

2024年3月9日(土)～5月12日(日)



本展覧会では、博物館の資料がどのように保存され、どのように管理されているかに注目をして、「科学分析」、「保存処理」、「文化財害虫」、「保存環境」という章立てのもと、総合博物館らしい様々な資料と館内で使用している道具などを紹介してみました。

マニアックな展示内容となりましたが、「そんな見方ができるんだ」、「家の資料や知り合いの家にある資料を整理する時は、温度・湿度や虫などに気をつけてみよう」などの声をいただき、担当者としても大切なお宝を守っていくきっかけになったようで喜ばしい思いでした。

しかしながら、文化財の保存で、その形を永遠を保てるというわけではありません。科学分析でわかったことを基に適切な処理を検討することができたり、保存環境を調査し、その結果から状況を改善することで文化財や貴重な資料を延命することができるのです。今を生きる私たちの、小さな気配りの積み重ねが保存につながっていくのだと思います。

(保存科学担当: 坂本)

通年講座報告

令和5年度は考古学講座、保存科学講座、民俗学講座、くまはくゆるゆる美術部、動物学講座、植物学講座、地質学講座の7つの通年講座を行いました。その中から今回は「植物学講座」と「くまはくのゆるゆる美術部」についてご紹介します。

植物学講座

4～12月の期間に室内講座3回と観察会2回を行いました。さく葉標本の作製体験では初めて作ったという方も多く、新聞紙にきれいな形で挟むのに苦労し、協力し合いながら作業されている様子が印象的でした。また、採集した植物の名前を、これかな?…いや、こっちな??と言いながら図鑑で一生懸命調べるなど、大変にぎやかな回となりました。講師の先生をお迎えして薬用植物について学んだ回では、改めて植物の力に感心し、身近な植物にさらに目を向ける機会となったようです。夏は立田山、秋は金峰山で行った観察会では、地域の自然に目を向けて、季節の植物を楽しみ、知っていただくことができました。今年度は8月より始めます。今回もたくさんの方のご参加をお待ちしております。



(植物担当: 山口)

10月観察会(金峰山山頂)

今年度も各種講座が5月より順次開始されます。ご興味のある方は、ぜひ博物館ホームページでご確認ください。

くまはくのゆるゆる美術部

去る1月28日(日)に「くまはくのゆるゆる美術部」(以下、ゆる美)の見学会を熊本市西区春日の来迎院にて開催しました。ゆる美初の見学会で、20名の参加がありました。万日山の麓に位置する来迎院に向かう道中からは、熊本駅一帯がよく見え、昨今の開発で景色が一変したことがよくわかります。

本堂では、ご本尊の《阿弥陀如来立像》(鎌倉時代中期)、松本喜三郎《聖観世音菩薩立像》(明治20年:1887)などを拝観しました。また、道向かいの如意庵跡に所在する「万日塔」(熊本市指定有形民俗文化財)も見学しました。普段、見学の機会が少ない文化財を学び、参加者の皆さんも楽しんでいただけたようです。本見学会を快くお引き受けくださった来迎院ご住職の小川修海様、副住職の小川太心様に心より感謝申し上げます。



(美術工芸担当: 竹原)

イベント報告

こども自然学び教室

【化石と海辺の生きものの観察会】

これまで「化石観察会」という名前で開催していたこの企画ですが、今年度から化石だけではなく海辺の生きものも広く学べる観察会として生まれ変わりました。さらに博物館に集合して天草に向かうバスの車内では、道中の山や島などの特徴的な地形を見ながら、その成り立ちに関わる地層や岩石についてもご紹介しました。現地に到着して海岸に降り立つと、いよいよ化石や生きものを探す楽しい時間のはじまりです! ウニやウミユリのような棘皮動物の化石をいくつも見つけたお子さんや、アンモナイト探しに熱中するお父さん、学芸員の手から飛び出したサツマゴキブリに驚くお母さんなど、あちらこちらから発見の声が聞こえる賑やかな観察会となりました。

(地質担当: 南部)

2023年11月11日(土)



【ちりめんモンスターを探そう!】

1月21日、「ちりめんモンスター」の観察会を実施しました。ちりめんモンスターとは、ちりめんじゃこに混じるさまざまな生きものを指し、これらを観ることで、その地域の海の生態系や個々の生きもの同士の関係、環境の変化などを知ることができるのです。今回のイベントでは、上天草市龍ヶ岳町で獲れたちりめんを観察していただきました。大多数のカタクチイワシの中から変わった形の“モンスター”を見つけ出す作業は宝さがしにも似た楽しみがあり、付添いの保護者もちりめん観察にのめり込む姿が印象的でした。今後、同じ場所で違う時期に獲れたものを入手するなどして、このイベントの意義を深めたいと考えています。

(動物担当: 清水)

2024年1月21日(土)



ダルマガレイ類の稚魚

くまはく誕生月間

毎年2月に開催しているくまはく誕生月間! 今年は予想以上にたくさんの方がご来館され、期間中3回ご来館いただいた方にはミニ水晶をプレゼントしました。

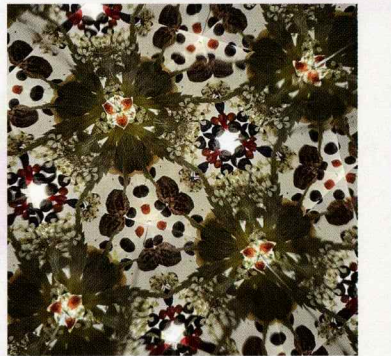
【押し花でつくる万華鏡】

今回は植物を使った工作イベントで、押し花や乾燥させたタネを材料にして万華鏡を作りました。ビーズのようにキラキラではありませんが、色とりどりで形もいろいろ。小さなお子様と保護者の方も一緒に身近な植物の多様性に触れてもらいたいと思って企画したイベントでした。

はじめに材料として使うタネの特徴や散布方法について紹介しました。風によって回転して落下するアオギリのタネをみんなで飛ばしてみたり、アオツツラフジのタネ表面の細かい模様をルーペで観察してみたり、タネのヒミツを楽しんでいただけた様子でした。イベント中には、「あの花はこんなタネだったんだ!」「ウバユリのタネがどっかいった～!!」などという声も聞こえてきて、発見あり、ハプニングありの楽しい体験となったようです。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

(植物担当: 山口)

2024年2月17日(土)



【半導体に触れよう、学ぼう!】

このワードを聞かない日は無い! と断言できそうな「半導体」。でも、「産業のコメ」とも呼ばれていますが、その実態は? と問われたら答えに窮する人も多いのでは。そんな現状も踏まえ、誕生月間中の2月24日(土)に「半導体」に関する「学びと実験・観察・製作体験教室」を開催しました。講師は熊本大学名誉教授の東徹先生で、各種の半導体(LED・トランジスタ・メロディーIC・タッチセンサー・マイクロコンピュータ)を回路に組み込んだ自作の教材・教具をもとに、やさしく丁寧に指導いただきました。約30名の参加者(親子)は、半導体部品が発光・発電・電流の増幅をしたり、センサーとしての働きをしたりすることを実感した様子。最後はタッチセンサーを使った鍵盤楽器を作り、それぞれに演奏を楽しんでいました。

(理工担当: 山口均)

2024年2月24日(土)

